

花葉会総会

10月7日(日)午後2時より、平成18年度花葉会総会が東京・芝パークホテルにて開催されました。出席者36名、宮田増美幹事の司会進行で定刻通り開始。

安藤敏夫会長より開会の挨拶と大学の近況報告がありました。「4月より、千葉大学大学院園芸学研究科・園芸学部という名称に変わりました。研究に重点を置き、教員は大学院専任、学部兼務という形です。大学院は環境園芸学専攻の博士課程に。園芸学部は園芸学科、応用生命化学科、緑地環境学科、食料資源経済学科の4学科となりました。また、これまでの助教授の名称が准教授、助手が助教となりました。准教授は教授の職務を助けるという規定から、自ら研究・教育するという規定に、助教も自ら研究・教育ができるようになりました。大学の変化のスピードは速いというのが現状です。

私事ですが、柏のセンター長を4月で退任し、研究室へ戻りました。農場の最後の農場長を引き受けてから6年、センターを立ち上げ、昨年センターの売上1億円を達成し、一応の役目を果たしたというのが退任の理由です。これからは生涯1研究者でいたいと考えています」と、締めくくりました。

午前中に開催された幹事会で推薦を受けた長岡幹事長が議長に指名され、議事に入りました。議題は次の通りです。

平成18年度事業報告

- ① 7月22・23日
第23回花葉サマーセミナー
- ② 10月1日 総会
- ③ 花葉会賞の贈呈
18年度の実賞者は山手義彦氏

(昭42園卒)であった。

- ④ 11月9日～11月15日
第17回海外園芸事情調査「タイ・チェンマイの国際園芸博覧会視察」
- ⑤ 12月10日「花葉」25号発行
- ⑥ 花産業必修1000属検定では、学外からの受験者もあった。
- ⑦ 幹事会の開催は、平成18年4月15日、6月24日、7月23日、8月12日、10月1日、12月9日、平成19年1月27日、3月3日の8回。

平成18年度会計報告

収入の部

前年度繰越金	1,614,568
会報広告料(25号)	1,200,000
サマーセミナー売上	65,500
書籍売り上げ	3,000
卸用カタログ売上	50,000
協力金	473,460
セミナー収入	803,419
雑収入	211,910
預金利息	749
合計	4,422,606円

支出の部

印刷費	127,050
会報関係	1,344,255
通信費	142,410
運送費	6,770
記念品代	44,100
会議費	286,793
事務費	538,984
賃金	651,710
慶弔費	31,500
税金	70,000
雑費	100,000
合計	3,343,572円
差引残高	1,079,034円

第23回

2006年サマーセミナー会計報告

平成18年7月22・23日(土・日)日本歯科大学富士見ホールにて開催。

参加者数310名(うち幹事、講師、記者、発表者、学生等90名)

収入

受講料		
@30,000 × 164名		4,920,000
@27,000 × 53		1,431,000
@18,000 × 3		54,000
合計	220名	6,405,000円

支出

会場費	2,897,261
印刷費	880,775
講師謝礼	600,000
講師旅費宿泊費	159,000
通信費	34,580
運送費	214,960
事務費	377,539
会議費	292,000
税金	66,666
広告費	58,800
備品費	0
雑費	20,000
合計	5,601,581円
差引	803,419円

平成18年度会計監査報告

会計監査の林角郎氏より、監査報告がありました。

平成19年度事業計画

- ① 第24回2007年
花葉サマーセミナー開催
平成19年7月7・8日(土・日)
日本歯科大学富士見ホール
- ② 花葉会賞の贈呈
- ③ 第18回海外園芸事情調査
- ④ 「花葉」26号 発行
- ⑤ 花産業必修1000属検定
- ⑥ 園芸学部創立100周年記念事業

へ基金より50万円を寄付

平成19年度予算 収入の部

前年度繰越	1,079,034
会報広告料	1,100,000
テキスト売上	50,000
その他の収入	800,000
園芸学部創立100周年記念 事業寄付のため基金より入金	500,000
預金利息	100
合計	3,529,134円

支出の部

印刷費	130,000
会報関係	1,500,000
通信費	140,000
運送費	20,000
記念品代	50,000
会議費	200,000
事務費	300,000
賃金	400,000
慶弔費	50,000
税金	70,000
園芸学部創立100周年 記念事業への寄付	500,000
雑費	69,134
予備費	100,000
合計	3,529,134円

基金報告

前年度残高	27,335,552
きよ金	529,750
定期利息	5,019
預金利息	1,132
合計	27,871,453円

(平成19年3月31日現在)

報告

園芸学部創立100周年記念事業

募金委員会副委員長の野口博正氏(昭35園卒)より、記念事業の説明、および募金のお願いがなされました。

平成19年9月現在、募金総額は1億円を突破。目標額は2億円(平成22年3月末)を設定。なお

一層、皆様のご協力をお願い致します。なお、詳細は記念事業会より送られた募金趣意書をご覧ください。問合せ：Tel 047-308-8968

役員交代等

会計監査の林角郎氏より退任の申し出があり、遠藤宗男氏(昭38園卒)に交代。新幹事として石川君子氏(昭47園卒)を迎えたことが長岡議長より報告されました。

なお、それぞれの議題は、拍手をもって承認されました。

花葉会賞贈呈

総会に引き続いて、花葉会賞の贈呈がありました。鈴木司幹事が山草の研究と山草苗の産地形成等に多大な功労のあった萩原純一氏(昭29園卒)を紹介。安藤会長より賞状と記念品が授与されました。

受賞記念講演

萩原純一氏より、「私の略歴—山草に魅せられて」と題して講演が行われました。

「山草はやくざのイメージである。私は下町生まれ。初めて接した山草は香具師が売っていた。セッコク、フウラン、ナゴランなど、戦後はユキワリソウなども。その後、各地に山草会ができた。もんぺをはいて山へ行く。みんな採ってしまう。やくざである。

私は東京山草会に入った。会長

がすごい人だった。イギリスからスコット女史を招いた。サキシフラガのきれいな写真を見せられた。そしてイギリスへ来れば苗を上げるといわれて、みんなで出かけた。私はリストを作っけいき、50種ももらってきた。英語がしゃべれて、学名がわかる。大事なことです。

山草は山から採るな、それを売るな、尾瀬は人を入れるな、植物に名札はつけるな、すぐ盗られる。タネから作って売れば、そんなことはなくなる。山村に産業が興る。花づくりは農業ではない。園芸は演芸と同じで「芸」である。人まねではできない。話はあちらこちらに飛びましたが、興味深い内容でした。詳細は「私の略歴」(P.57~59)をお読みください。

懇親会

午後4時より、武内嘉一郎・山下容子両幹事の司会進行で、懇親会が始まりました。乾杯の発声を、出席者名簿1番の小田善一郎氏が行いました。途中、吉池貞蔵氏がリンドウを卒業しバラの育種に転向したこと。出席者名簿の最後の永井淳一氏は平成8年卒。希望あふれる近況を報告。終始和やかな雰囲気で行いました。また、花葉会事務局の新メンバー岡田美也子さんが紹介されました。

(文責：編集部)

